

結果一覧表 (日本バイオアッセイ研究センター担当)

試験番号		7497	7498	7499	7500	7501	7502	7503	7504
被験物質	名称	アリル=メタクリラート	4-ヒドロキシ安息香酸エチル	プロピルパラベン	1,3-ジフェニルグアニジン	3,4-ジメチルフェノール	3,5-キシレノール	2,3-キシレノール	6-フェニル-1,3,5-トリアジン-2,4-ジアミン
	CAS No.	96-05-9	120-47-8	94-13-3	102-06-7	95-65-8	108-68-9	526-75-0	91-76-9
	分子量	126.15	166.17	180.20	211.26	122.16	122.16	122.16	187.20
	製造 (供試元)	和光純薬工業	和光純薬工業	和光純薬工業	和光純薬工業	和光純薬工業	和光純薬工業	和光純薬工業	和光純薬工業
	ロット	ECJ2744	LKH3972	LKP4572	LKL1611	PDE4787	LKP5020	SAR0277	PDR6768
用量設定試験および細胞増殖試験	1回目の用量設定試験 (mM) クリスタルバイオレット法	0.020,0.039,0.078,0.16,0.31,0.63,1.3,2.5,5.0,10	0.020,0.039,0.078,0.16,0.31,0.63,1.3,2.5,5.0,10	0.020,0.039,0.078,0.16,0.31,0.63,1.3,2.5,5.0,10	0.020,0.039,0.078,0.16,0.31,0.63,1.3,2.5,5.0,10	0.020,0.039,0.078,0.16,0.31,0.63,1.3,2.5,5.0,10	0.020,0.039,0.078,0.16,0.31,0.63,1.3,2.5,5.0,10	0.020,0.039,0.078,0.16,0.31,0.63,1.3,2.5,5.0,10	0.020,0.039,0.078,0.16,0.31,0.63,1.3,2.5,5.0,10
	2回目の用量設定試験 (mM) クリスタルバイオレット法	NT	NT	NT	0.0013, 0.0025, 0.0050, 0.010, 0.020, 0.040	NT	NT	NT	NT
	細胞増殖	変化無し	1.3 mM以上で阻害 (1.3 mMは位相差顕微鏡による観察下での減少)	0.63 mM以上で阻害	① 0.020~1.3 mMで促進、2.5 mM以上で阻害 ② 0.0050~0.040 mMで促進	1.3 mM以上で阻害(1.3 mMは位相差顕微鏡による観察下での減少)	0.63 mM以上で阻害	0.63 mM以上で阻害	0.31 mM以上で阻害
	培地のpH	変化無し	変化無し	変化無し	5.0と10 mMでアルカリ性を示す変化	変化無し	変化無し	変化無し	変化無し
	沈殿	無し	無し	10 mM	10 mM	無し	無し	無し	5.0, 10 mM
形質転換試験	本試験 (mM)	2.5, 3.5, 5.0, 7.1, 10	0.019, 0.038, 0.075, 0.15, 0.30, 0.60, 1.2	0.010, 0.020, 0.040, 0.080, 0.16, 0.32, 0.64	0.00049, 0.0015, 0.0044, 0.013, 0.040, 0.12, 0.36	0.019, 0.038, 0.075, 0.15, 0.30, 0.60, 1.2	0.019, 0.038, 0.075, 0.15, 0.30, 0.60, 1.2	0.019, 0.038, 0.075, 0.15, 0.30, 0.60, 1.2	0.019, 0.038, 0.075, 0.15, 0.30, 0.60, 1.2
	細胞増殖	変化無し	1.2 mMで阻害	0.64 mMで阻害	0.013~0.36 mMで促進	1.2 mMで阻害(位相差顕微鏡による観察下での減少)	0.60, 1.2 mMで阻害	0.60, 1.2 mMで阻害	0.30 mM以上で阻害
	形質転換巢の有意な増加	全濃度で見られず	全濃度で見られず	全濃度で見られず	連続6用量(0.0015, 0.0044, 0.013, 0.040, 0.12, 0.36 mM)で有意な増加	連続3用量(0.038, 0.075, 0.15 mM)で有意な増加	全濃度で見られず	全濃度で見られず	全濃度で見られず
	備考		0.30, 0.60, 1.2 mMで形質転換率が統計学的に有意な減少を示し、1.2 mMの形質転換率は0	0.64 mMでは細胞毒性作用により、培養途中で細胞が部分的に剥がれたことから、評価対象外とした		0.60と1.2 mMで形質転換率が統計学的に有意な減少	1.2 mMで形質転換率が0	0.30, 0.60, 1.2 mMで形質転換率が統計学的に有意な減少を示し、1.2 mMの形質転換率は0	0.075, 0.30, 0.60, 1.2 mMで形質転換率が統計学的に有意な減少を示し、0.60と1.2 mMの形質転換率は0
結論 (in vitroプロモーション作用)		陰性	陰性	陰性	陽性	陽性	陰性	陰性	陰性

NT: not tested.

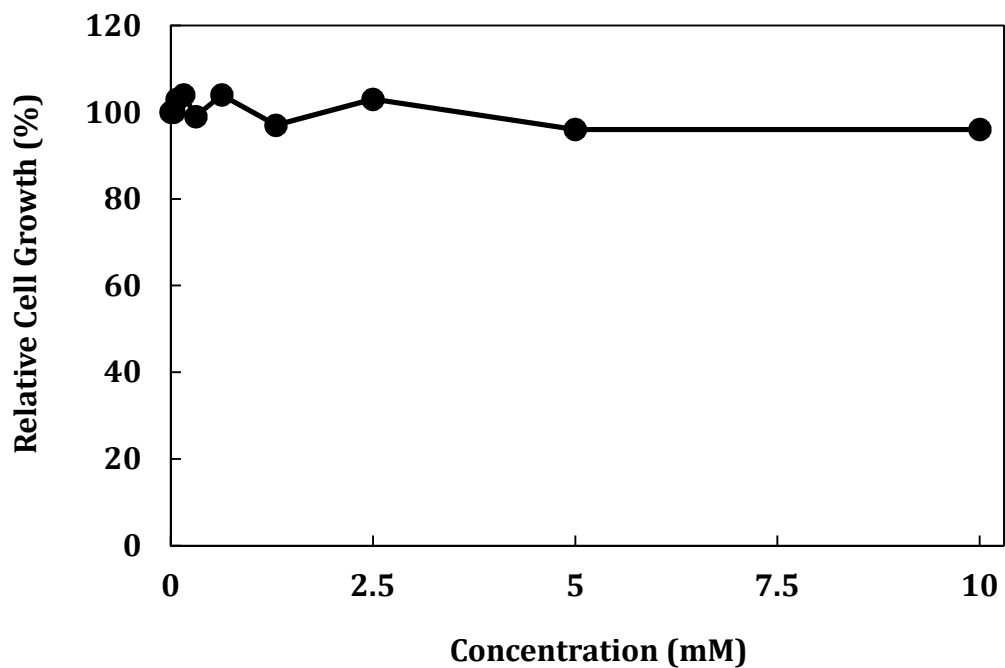


図1 アリル=メタクリラートのBhas 42細胞における細胞増殖試験の結果

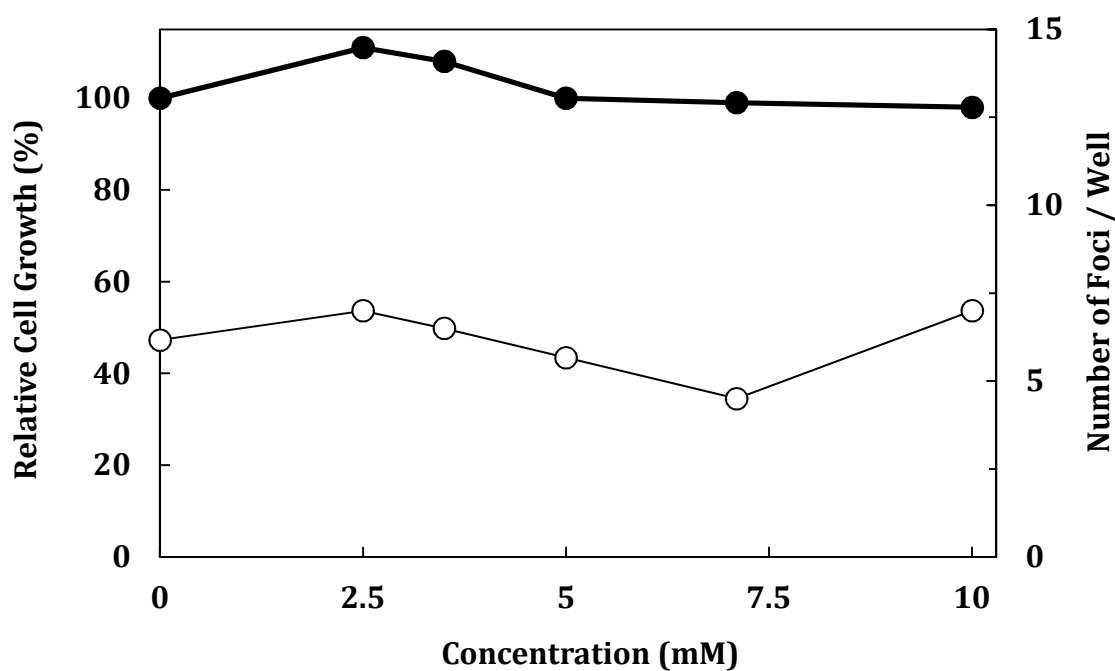


図2 アリル=メタクリラートのBhas 42細胞における形質転換試験の結果

● : 相対細胞増殖率(%), ○ : 形質転換巣数/ウェル

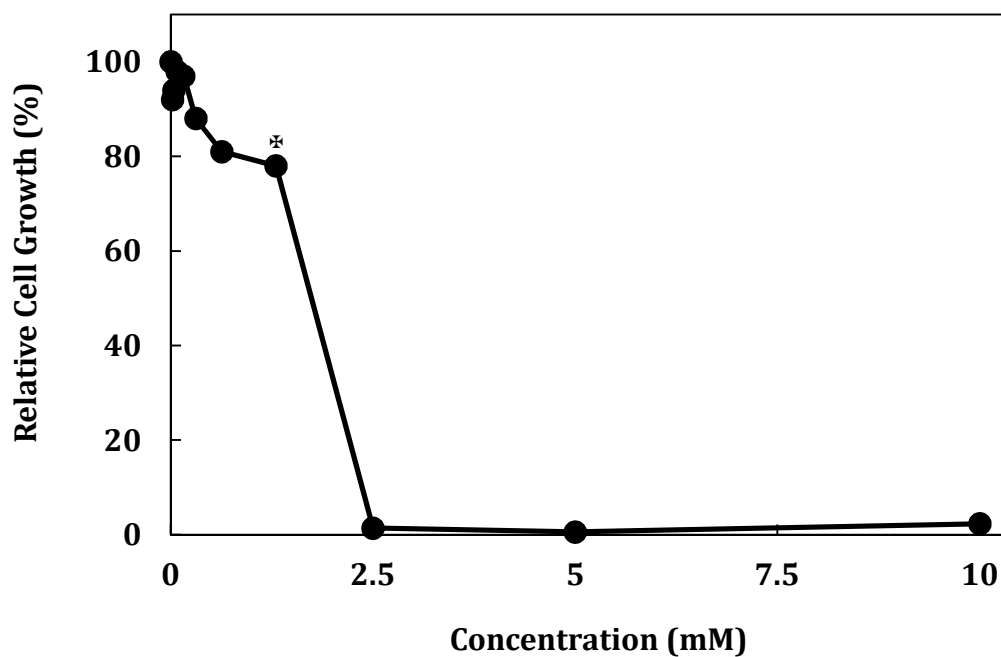


図3 4-ヒドロキシ安息香酸エチルのBhas 42細胞における細胞増殖試験の結果  
 ※ 細胞毒性により、位相差顕微鏡観察で部分的にコンフルエントよりも少ない細胞密度を示した

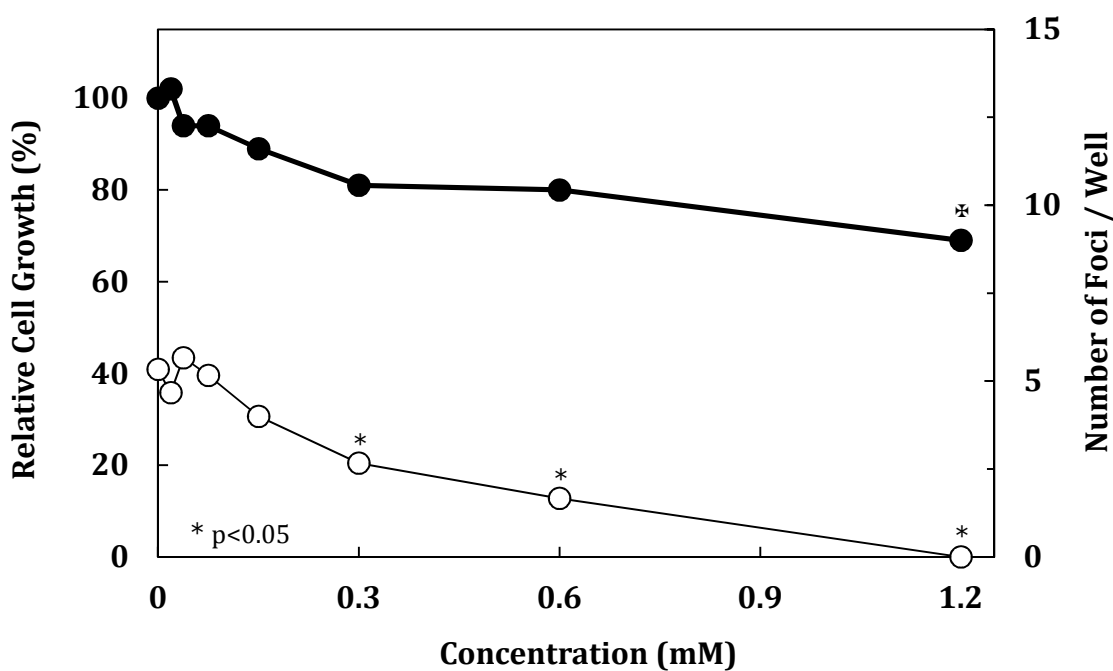


図4 4-ヒドロキシ安息香酸エチルのBhas 42細胞における形質転換試験の結果  
 ※ 細胞毒性により、位相差顕微鏡観察で部分的にコンフルエントよりも少ない細胞密度を示した

● : 相対細胞増殖率(%), ○ : 形質転換巣数/ウェル

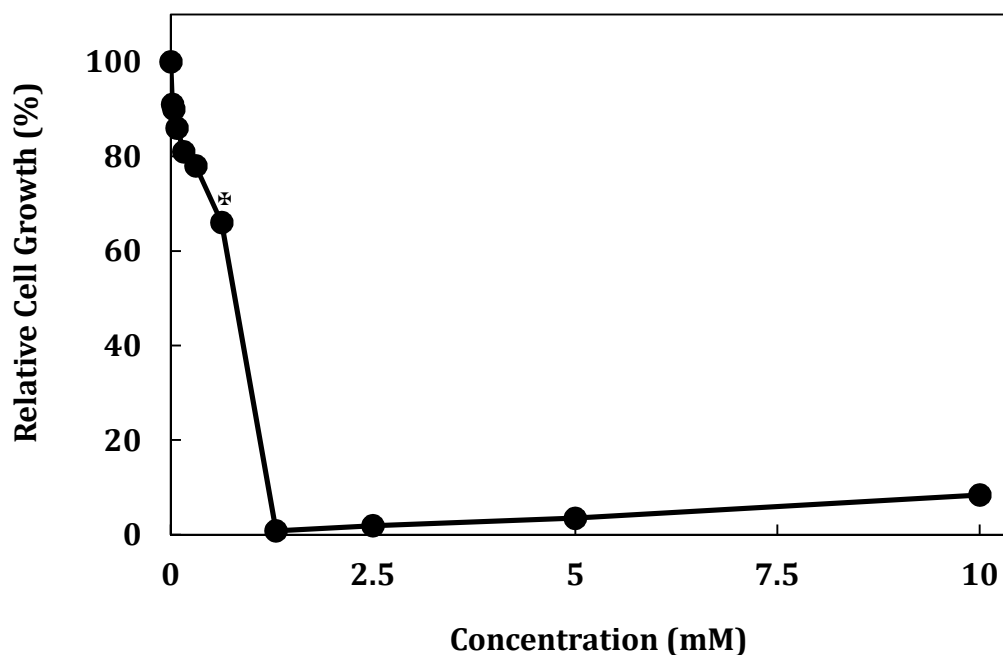


図5 プロピルパラベンによるBhas 42細胞における細胞増殖試験の結果

\* 細胞毒性により、位相差顕微鏡観察で部分的にコンフルエントよりも少ない細胞密度を示した

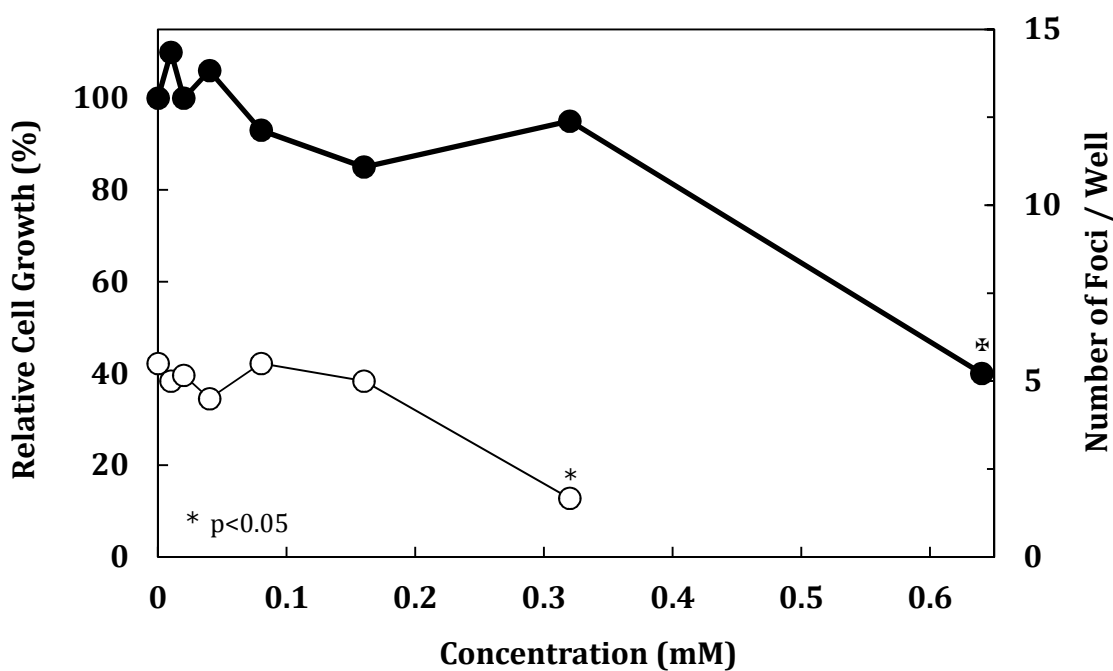


図6 プロピルパラベンによるBhas 42細胞における形質転換試験の結果

注) 0.64 mMでは細胞毒性作用により、大部分の細胞が剥がれたことから、評価対象外とした

\* 細胞毒性により、位相差顕微鏡観察で部分的にコンフルエントよりも少ない細胞密度を示した

● : 相対細胞増殖率(%), ○ : 形質転換巣数/ウェル

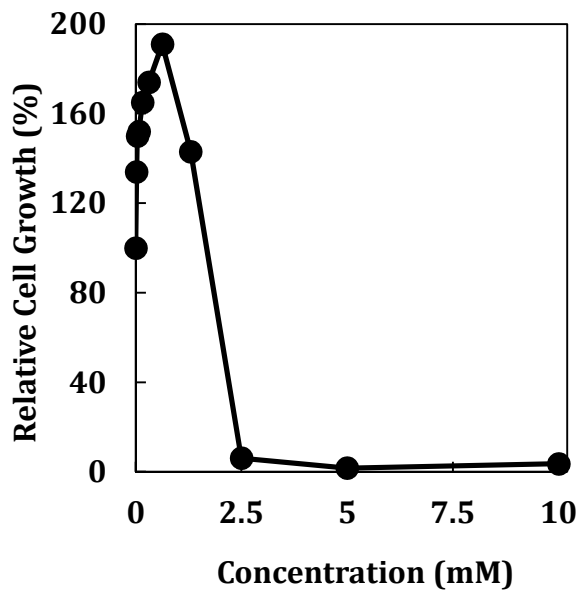


図7 1,3-ジフェニルグアニジンのBhas 42細胞における細胞増殖試験-1の結果

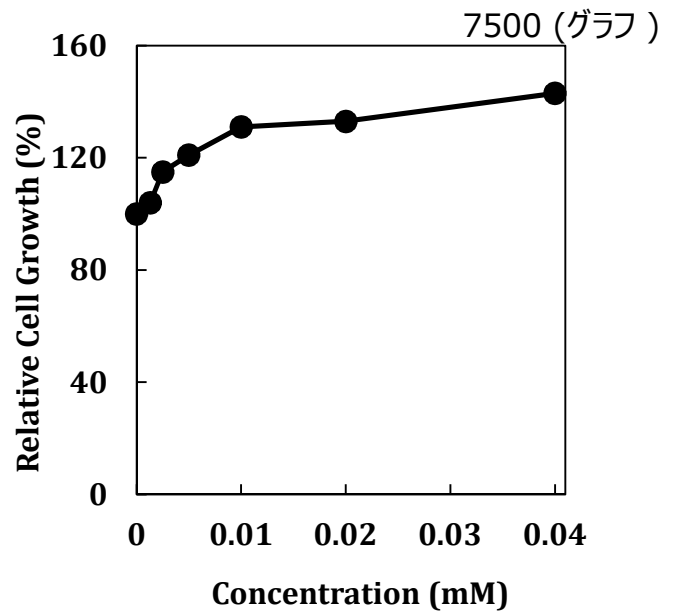


図8 1,3-ジフェニルグアニジンのBhas 42細胞における細胞増殖試験-2の結果

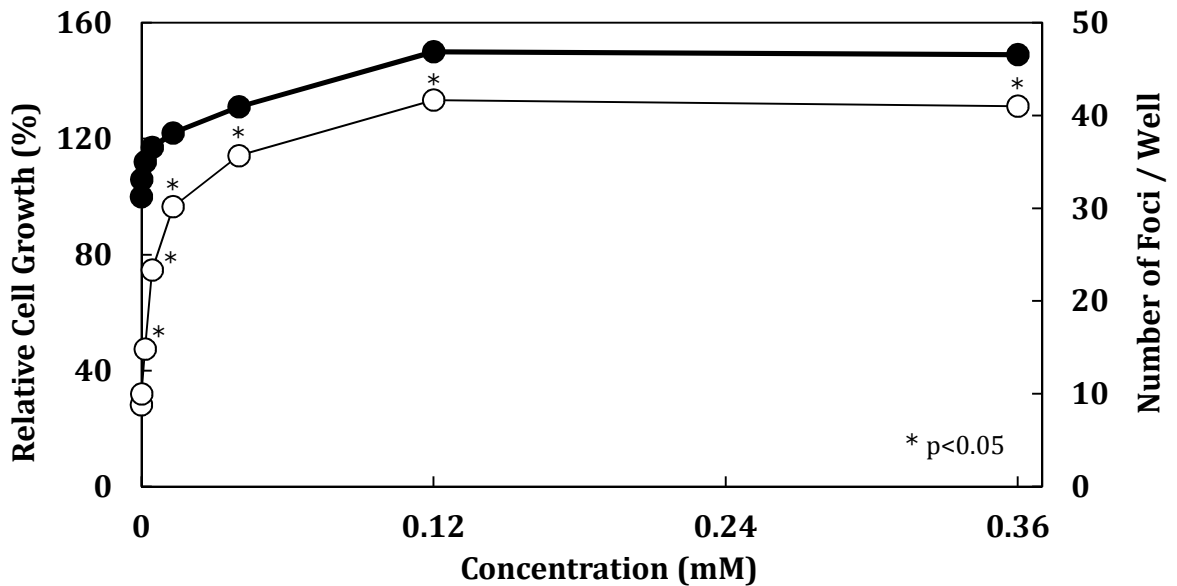


図9 1,3-ジフェニルグアニジンのBhas 42細胞における形質転換試験の結果

● : 相対細胞増殖率(%), ○ : 形質転換巣数/ウェル

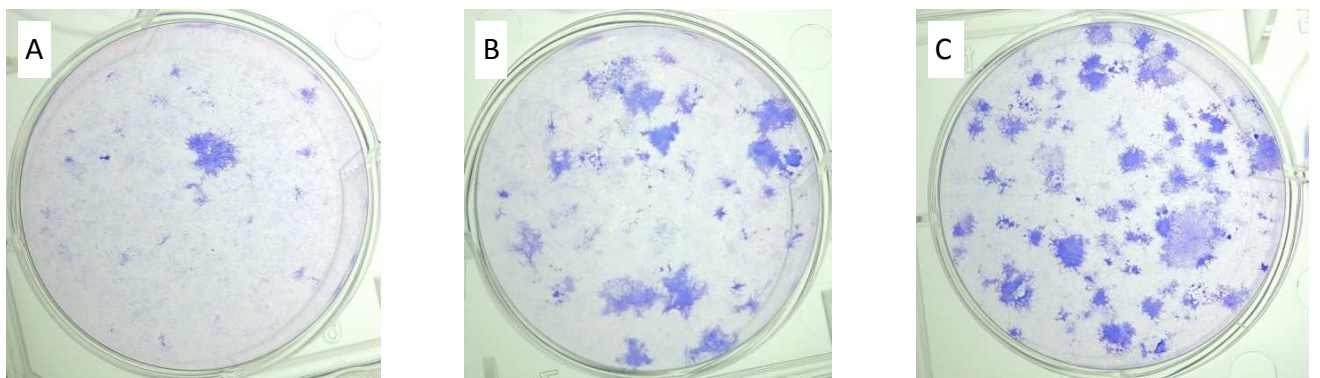


図10 染色したBhas 42細胞の代表的ウェル

A: 陰性(溶媒)対照群、B: 陽性対照群、C: 1,3-ジフェニルグアニジン 0.12 mM

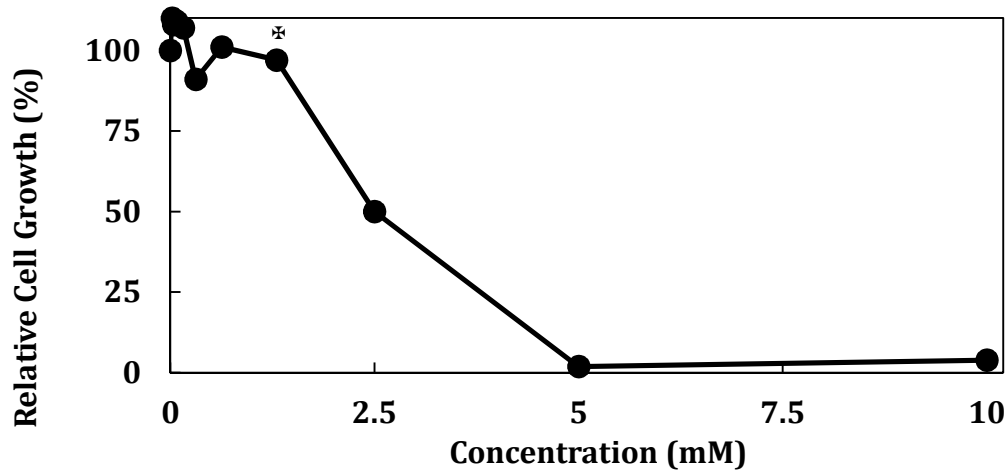


図11 3,4-ジメチルフェノールのBhas 42細胞における細胞増殖試験の結果

※ 細胞毒性により、位相差顕微鏡観察で部分的にコンフルエントよりも少ない細胞密度を示した

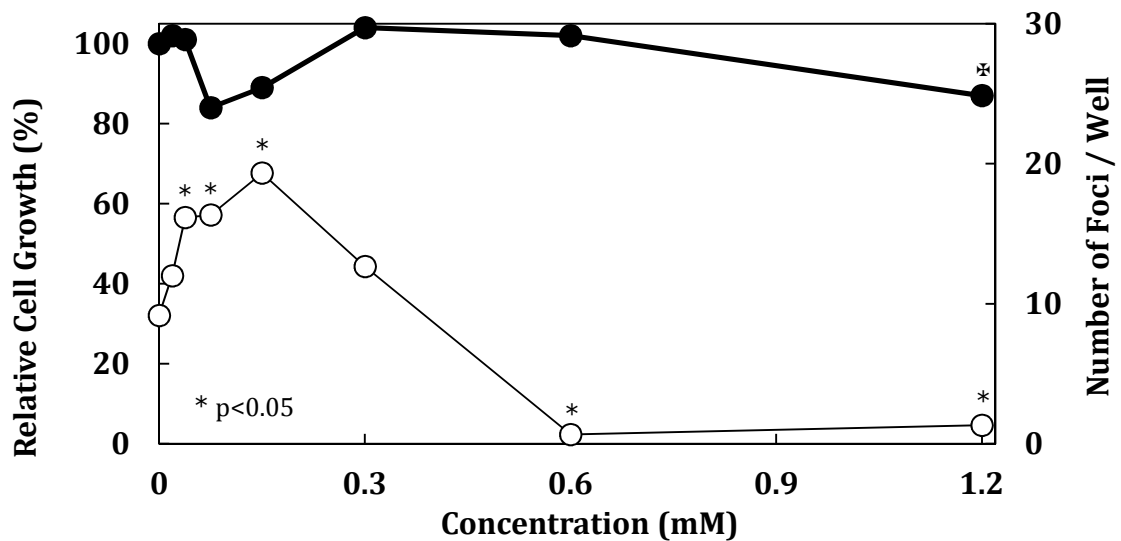


図12 3,4-ジメチルフェノールのBhas 42細胞における形質転換試験の結果

※ 細胞毒性により、位相差顕微鏡観察で部分的にコンフルエントよりも少ない細胞密度を示した

● : 相対細胞増殖率(%), ○ : 形質転換巣数/ウェル

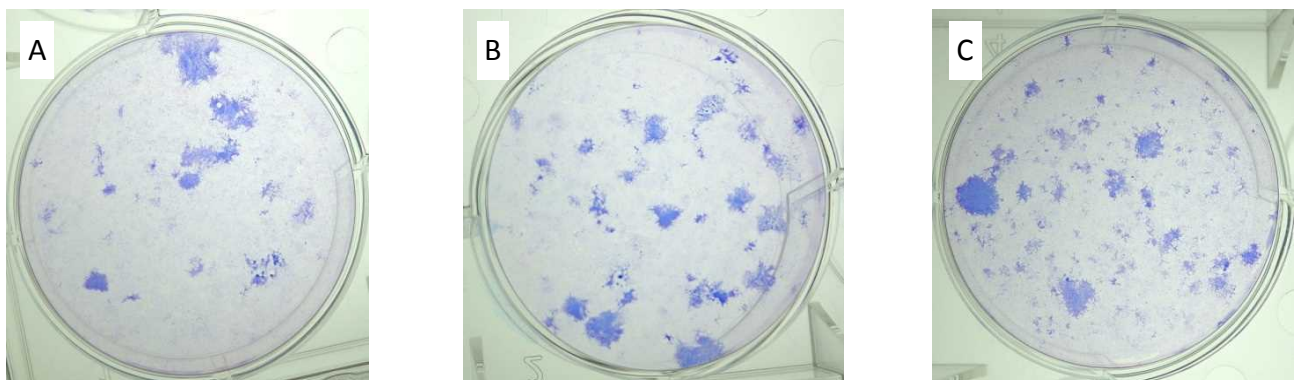


図13 染色したBhas 42細胞の代表的ウェル

A: 陰性(溶媒)対照群、B: 陽性対照群、C: 3,4-ジメチルフェノール 0.15 mM

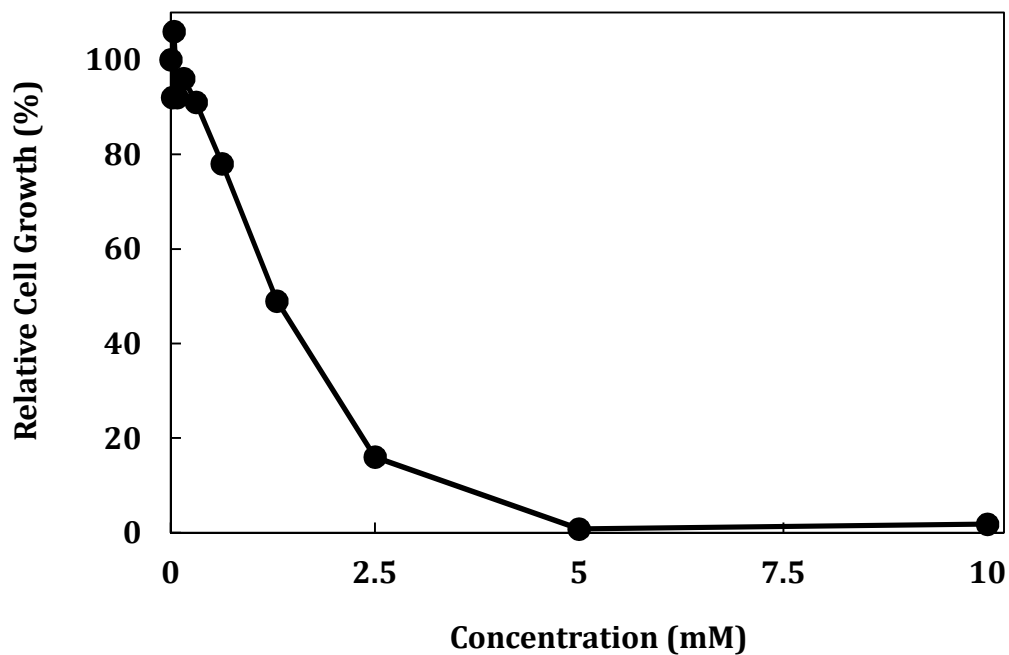


図14 3,5-キシレノールのBhas 42細胞における細胞増殖試験の結果

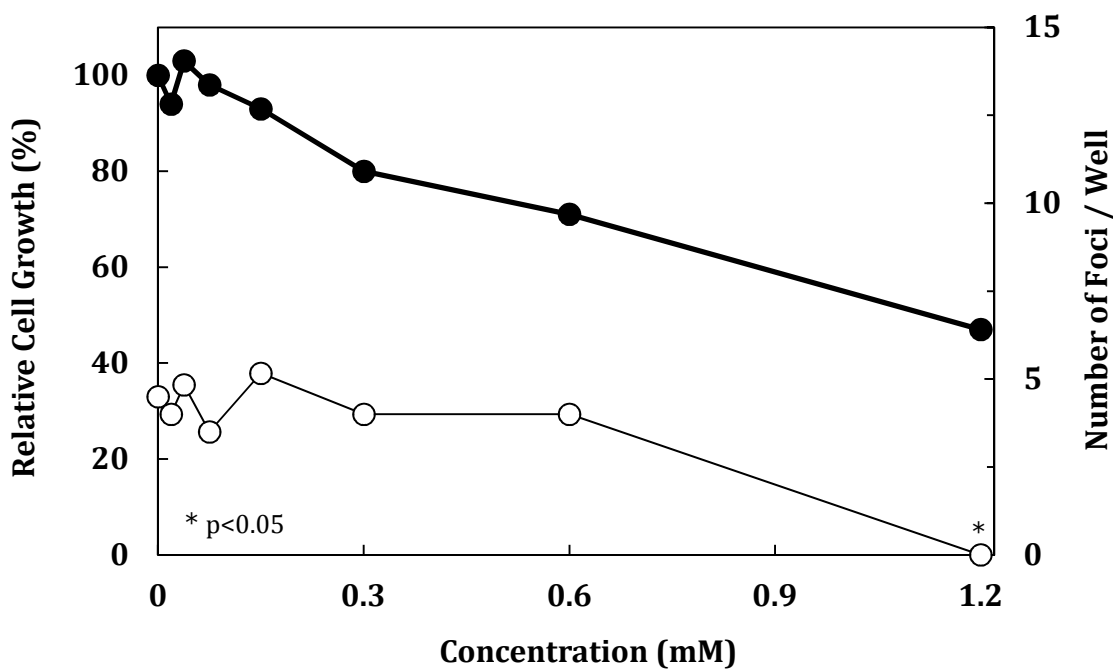


図15 3,5-キシレノールのBhas 42細胞における形質転換試験の結果

● : 相対細胞増殖率(%), ○ : 形質転換巣数/ウェル

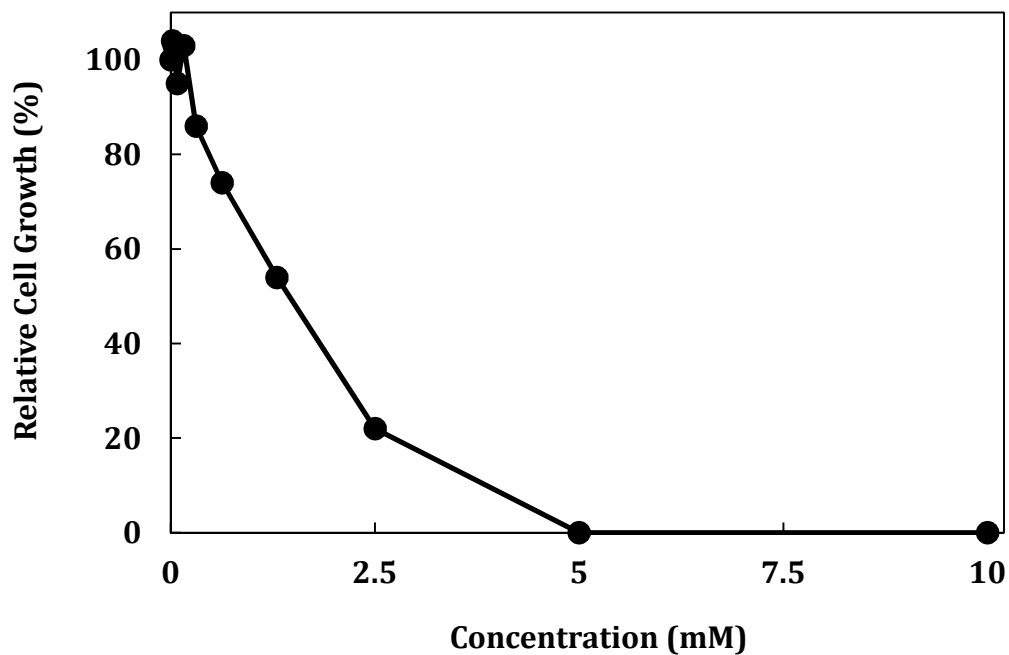


図16 2,3-キシレノールのBhas 42細胞における細胞増殖試験の結果

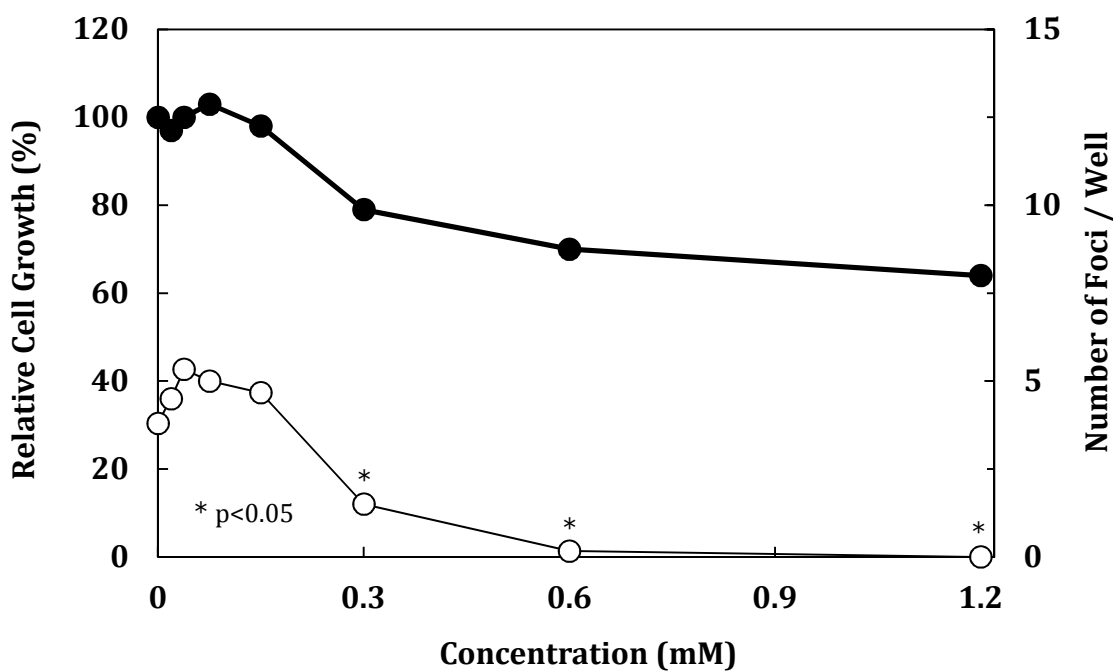


図17 2,3-キシレノールのBhas 42細胞における形質転換試験の結果

● : 相対細胞増殖率(%), ○ : 形質転換巣数/ウェル



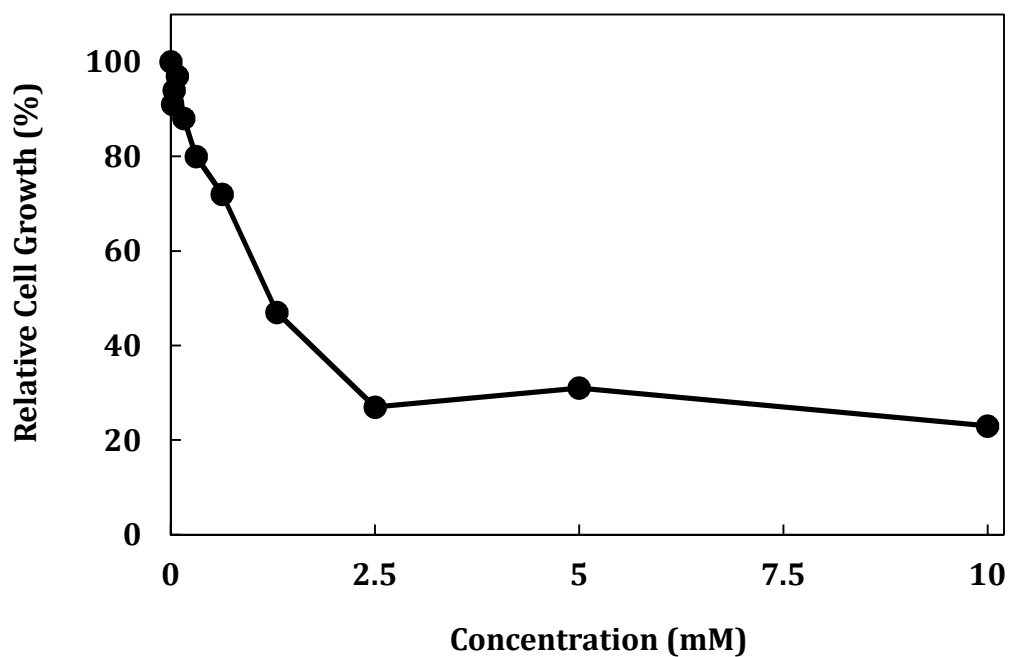


図18 6-フェニル-1,3,5-トリアジン-2,4-ジアミンのBhas 42細胞における細胞増殖試験の結果

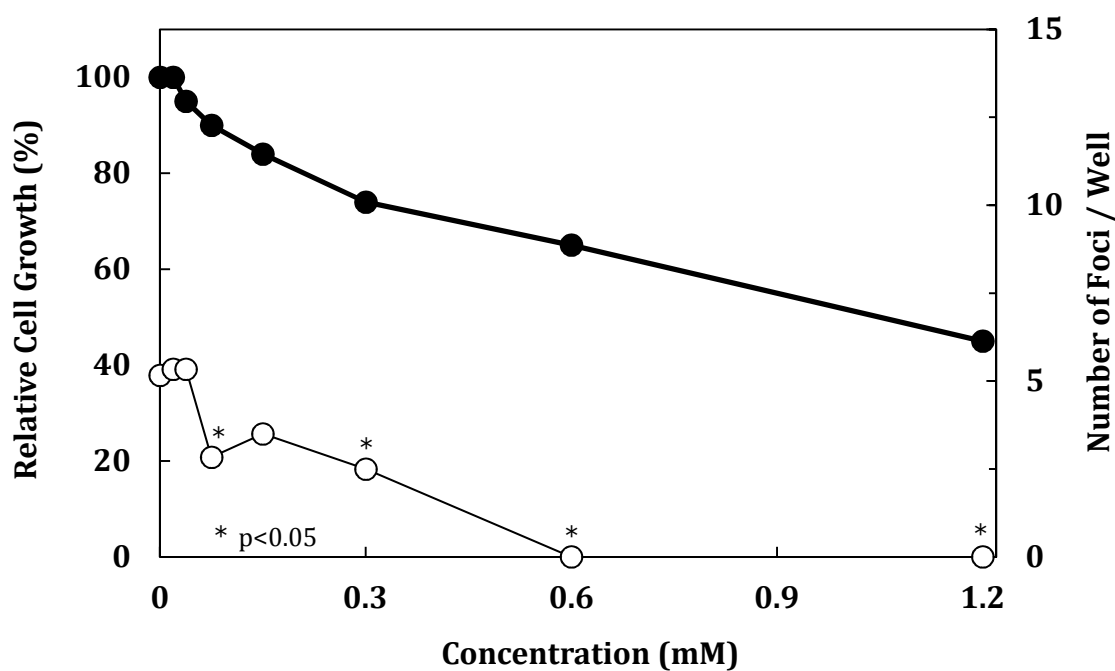


図19 6-フェニル-1,3,5-トリアジン-2,4-ジアミンのBhas 42細胞における形質転換試験の結果

● : 相対細胞増殖率(%), ○ : 形質転換巣数/ウェル